観光ボランティアガイドつるが 広報誌　第３２号

ゆりかもめ yurikamome

令和２年7 月１日発行

観光ボランティアガイドつるが
［連絡先］
〒914-0051 福井県 敦賀市 港町 １－２５
敦賀鉄道資料館（旧敦賀港駅舎）
TEL・ＦＡＸ　0770-21-0056
http://www.turuga.org/index.html
又はTEL 0770-22-8167（敦賀観光協会）

立石岬灯台は、立石岬に建つ白い石造りの中型灯台で、明治14年に石造り灯台としては初めて日本人による設計、施工で建設されました。日本海沿岸では2番目に建てられた歴史のある灯台です。

巻　頭　言

前川　和治

半年前のまでの日常が、新型コロナウイルスの影響で大きく様変わりし、いろんな影響が出ていましたが、ようやく、緊急事態宣言も解除され普段の生活へと徐々に戻ってきています。

コロナ禍の中では、悪い面だけでなく、良い面もありました。家族で近所を散策し、近所にこんな素敵なところがあったんだ！と素敵な場所を再発見することもできました。

立石岬灯台もその一つであり、家族で立石岬灯台に行き、「敦賀にこんないいとこがあったんだ！」を再発見することができました。普段は車で遠出してしまう家族旅行も、今回は近場へ。

近場の公園に、テントを持ってキャンプ気分を味わったり、裏山を探索したりと、田舎の敦賀ならではの楽しみを満喫しました。

コロナ禍をマイナスに捉えず、この際、県内の観光地を全部制覇して、近場で新しい発見と経験を積み、敦賀の観光に活かしていきたいと思います。

ごあいさつ

敦賀観光協会　事務局長　辻　善宏

皆さま、こんにちは。

この４月１日より敦賀観光協会でお世話になっています事務局長の辻と申します。

さて、世界中に被害を与えている新型コロナ感染症により、「新しい生活様式」の暮らしが求められ、観光案内の分野でも、自分を守り、お客さまを守ることに心を置いた、新たな観光案内のルールを守ることが必要となることと思います。

そんな情勢下ですが、北陸新幹線敦賀開業が３年後と迫る中、お客さまから敦賀をもっと応援しよう、また行こうと思ってもらえるような、ホスピタリティ溢れる観光ガイドが大切となってまいります。

当協会事務局といたしましても、ガイドの皆さまと連携、協力しながら、共に敦賀の観光振興に取り組みたいと存じますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

郷土を愛する敦賀人に

敦賀に観光ボランティアガイドができたのは、１９９９年（平成11年）敦賀港開港１００周年きらめきみなと博覧会が行われたときでした。

あれから早21年、当初、敦賀観光ボランティアガイド「ゆりかもめ」の名称で活動していましたが、その後「人道の港ムゼウムボランティア」、商工会議所の「おもてなし大使」、観光協会の「街角ガイド」が設立され、その４団体が合併し現在の「観光ボランティアガイドつるが」になったのが２０１２年（平成24年）で現在に至っています。

今はコロナの影響で訪れる人も少なく寂しい限りですが、11月には新人道の港ムゼウムも移築移転しますし、ダイヤモンドプリンセス号もまた、寄港予定と聞いています。そして来年には東京オリンピック、３年後には北陸新幹線延伸敦賀駅開通、敦賀駅が終着駅として全国に知れ渡るでしょう。その時では遅いのです。

今から敦賀市民総出でおもてなしの心を養い、誰もが敦賀の案内が出来る体制が急務だと思います。その為にも我々と一緒に魅力ある敦賀の名所旧跡・歴史を案内できる敦賀人になりませんか・・・。

私は現在77歳、３年前から人工透析をしていますが、その合間にボランティアガイドを続けています。その他に県の地域の縁結びのボランティアもやっています。年をとっても少しでも世の中のお役にたてればと願っています。

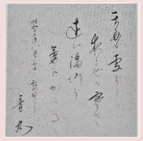
（大道　正明）

大敦賀行進曲は　あの古関裕而が作曲

大敦賀行進曲も期せずして全国に広がることになりました。

左の色紙は「大敦賀行進曲」、「満州想えば」がヒットして、二人が敦賀を訪れた時に残したものです。

（伊藤久男）



（音丸）

「西へ行こうか　東へ行こうか」で始まる大敦賀行進曲。敦賀祭りの民謡踊りで踊っている馴染みの曲ですね。

ＮＨＫ「朝ドラ」のモデル古関裕而が作曲し伊藤久男が歌った「大敦賀行進曲」のレコードのＢ面は「満州想えば」という曲で音丸が歌い、当時の世相にあったためか大変ヒットし、

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館常設展～「みなと敦賀を彩る歴史と文化」

（敦賀市指定文化財柿経公開展）

日時/7月1日（水）～8月2日（日）　会場/2階展示室

☆同館蔵絵画展示「幕末・近代のやまと絵」

日時/7月2日（水）～8月2日（日）　会場/3階展示室

※新型コロナウイルスの感染拡大等により変更となる場合もございます。あらかじめご了承ください。

☆みなとつるが山車会館別館、プチリニューアル

日本遺産【北前船寄港地・船主集落】構成文化財である別館に常設展示コーナー「敦賀と北前船～日本遺産の湊町～」を新設しました。また、「敦賀城主・大谷吉継」の常設展示室はレイアウトを一新しました。

（10時～17時、月曜日・祝日の翌日は休館）

編集後記

敦賀の自然と歴史を生かした観光の魅力はどこにも負けません。北陸新幹線の敦賀開業の２０２３年３月まであと２年と８ヶ月です。それに向かって、敦賀発展の大きな夢を実現させていくことができるのです。その仲間が観光ボランティアガイドの皆さんですし、私は活動が楽しいのです。（奥）

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受け付けています。

0770－22－8167（FAX 0770－22－8197）

なお、お申込み用紙をダウンロードされる場合は、以下のアドレス（観光協会ホームページ）にアクセスしていただき、観光協会宛てお送りください。

http://www.turuga.org/index.html

ガイド募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、もっと紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありませんので、以下までお気軽にお問い合わせ下さい。

①当会連絡先　0770－21－0056
②敦賀観光協会　0770－22－8167

観光スポット紹介

ガイドの一押しコース

西福寺

（後編）

永大産業（株）敦賀事業所前の広い道路を西進すると間もなく、右手の山麓に堂々たる楼門が見えてきます。西福寺の三門です。西福寺は、境内の主要な建物が重要文化財、書院庭園が国の名勝に指定されているほか、土地の寄進を記した証文、各種の禁制、大谷吉継の住職への手紙など古文書、仏画等の文化財の宝庫です。

☆総門と三門

総門　道路から最初に設けられている門で、大門とも云われています。桟瓦葺（さんがわらぶき）、四脚門、東西の袖塀付きで、寛永年間（１６２４～４３）に建立されたと伝えられています。これは、文禄２年に朝倉一乗谷より移築された阿弥陀堂を除けば境内最古の建築物です。

三　門

三門　総門をくぐるとそびえたつ重層式楼門です。元禄２年（１６８９）建立。昭和21年子どもの火遊びが原因で焼失、昭和54年再建されました。普通は「山門」と書きますがここでは「三門」を使います。

☆書院と庫裏

名勝庭園に面して建つ書院は、桁行６間半、梁間９間、切妻造銅板葺（当初はこけら葺）の建物で、南側に庫裏（くり、寺院の台所）が接続。寺伝によると慶長年間、初代福井藩主結城秀康が発願し、二代目藩主松平忠直が天井を寄進したといいます。完成は天和３年（１６８３）です。

（国指定重要文化財）

☆書院庭園

指定面積４，７３０平方米、江戸中期の作庭で、上方の三尊石を要として扇型に開く斜面の随所に立石を配し、手前下方に園池を設けて極楽浄土を表現したと言われています。紅葉の頃は背後の美しい山容と相まっておもむきが深く、書院や渡り廊下などの建築美と良く調和しています。

（国指定名勝）

書院庭園

☆スダジイ２株

開山・良如上人が、飢饉に備え手ずから植えたと伝えられています。御影堂への石段の両側、向かって右に雄株、左に雌株があり、ともに老齢巨木であるが樹勢は良好で、雌株には例年シイの実がよくなります。

（県指定天然記念物）

スダジイ

☆鬱金（うこん）桜

この桜は、松平忠直が寄贈し、福井城内から移植したと伝えられています。現在の株は三代目だそうです。薄黄緑色の八重咲きが美しい桜です。

☆曽良文学碑

元禄２年（１６８９）、「おくのほそ道」の旅で、芭蕉より一足早く敦賀入りし、西福寺を訪れた河合曽良を記念して三門の手前に建てられています。碑には曽良の旅日記から敦賀のくだり、森川許六（芭蕉の門人、画家）の描く芭蕉行脚図が写されています。

曽良文学碑

（文責：倉谷長武）

参考文献『観光つるが検定公式テキスト二〇一八年版一般社団法人敦賀観光協会編集・発行』その他

御影堂の修復について

御影堂はいつも工事中なのかと思わせる足場が周囲を囲んでいます。屋根の重量を支えるためにこういう処置がなされております。今年５月に老朽化が進んでいる庫裏とともに調査が行われ、屋根の大部分や床材、縁側などの解体修理が必要といわれています。今秋にも修復計画をまとめ、詳細に検討されます。事業着手は22年度以降、工事の費用は少なくとも20億円以上と想定されています。

歴史ある建造物を守っていくために、できる限りの支援が求められています。

敦賀鉄道資料館へいらっしゃ!!

読者のみなさん。敦賀は「鉄道と港の街」と言われていますが、その歴史についてはご存知でしょうか。金ヶ崎緑地に、とんがり屋根のレトロな建物があります。ここが敦賀の鉄道に関する事や港の歴史について紹介している「敦賀鉄道資料館」です。鉄道と港に興味のある方は、入館は無料なのでお気軽にお越しください。

《建物の案内》

この建物は、大正初期から昭和にかけて金ヶ崎桟橋にあった敦賀港駅の駅舎を模して復元したものです。

当時はここで列車をおりてウラジオストック行きの船に乗り、ヨーロッパまで向かいました。敦賀港は国際港であり、神戸や横浜のような異国情緒ただよう港町でした。

（上）元第一機関区模型
（左）北陸線の特急模型

駅舎の建物はおしゃれであり、洋装の紳士やドレス姿の婦人によく似合っていました。

《館内の案内》

館内に入って左側の部屋には、敦賀に鉄道が開通した時代からの歴史を、映像で分かり易く紹介しているコーナーがあります。同じ1階には、鉄道拠点のシンボルともいうべき機関車転車台や敦賀を走った列車の模型、実際に使用していた鉄道部品が展示されています。

敦賀港ジオラマ

２階の展示

２階に上がると、鉄道の歴史説明用パネルがずらっと並び、一緒に列車の銘板やキップ、時刻表などが展示されており、さらに一角には繁栄していた昭和初期の敦賀港のジオラマもあります。

来館された鉄道ファンの方は、「半日いても飽きない」とおっしゃる方もいます。

《これはすごい！そうだったのか！》

展示物を見ていると敦賀はすごいと思うようなことがあります。

少し紹介すると、明治15年、敦賀は日本海側で初めて鉄道が通った街です。新橋―横浜間に初めて鉄道ができたわずか10年後、東海道も全通していないのに、敦賀に鉄道が通り、陸（おか）蒸気がやってきました。

又、航空機が無い時代には、日本からヨーロッパに行くには、敦賀から出港するのが最短距離でした。船で旅してインド洋まわりで日本からヨーロッパに行くより、敦賀からシベリア鉄道経由のほうが半分の日程で行けたそうです。詳しくは展示パネルや時刻表、キップなどで確認下さい。敦賀に鉄道が通った背景も良くわかります。

夢はヨーロッパへ
切符
時刻表

《鉄道カフェ》

ここ「敦賀鉄道資料館」では、「鉄道カフェ」と銘打って、講座を年間３回ほど開いています。「古い鉄道トンネルの歴史」や「新幹線開業に向けての取り組み」など、新旧の鉄道関連のテーマで、講師を招いて説明して頂いています。開催時期などは「広報つるが」等で案内しています。残念ながら現在は、新型コロナ禍の影響で開催は未定となっていますが、再開の時は是非お越しください。

鉄道カフェの様子

「敦賀鉄道資料館」は「観光ボランティアガイドつるが」の会員が当直業務を担っています。鉄道以外の敦賀観光についても、気軽に声かけしてください。皆さんをお待ちしています。

（野添　功）